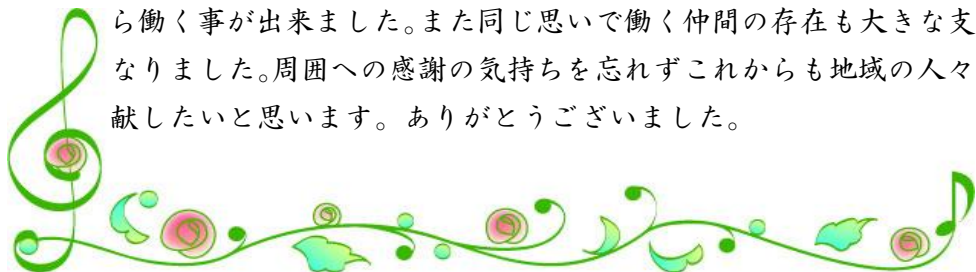


浅井 敦子 神戸百年記念病院

母から「何か資格を持った方がいい。」と言われ、人の役に立つやりがいのある看護師の道を選びました。

鐘紡病院（現・神戸百年記念病院）の病棟看護師を経て、健康管理センターに30年間、勤務させていただきました。受診者様にとっての健康・病気の予防とは何か、その人らしい健康づくりはどうすれば良いかを共に考え、迷い悩みながら、健康相談に取り組んできました。受診者様からの笑顔や、「あなたに会えるのが楽しみ。会うと元気になれる。」などのお言葉を頂き、いつも楽しくやりがいを持ち、ここが最高の部署と思いながら働く事が出来ました。また同じ思いで働く仲間の存在も大きな支えになりました。周囲への感謝の気持ちを忘れずこれからも地域の人々に貢献したいと思えます。ありがとうございました。



伊田 邦子 訪問看護ステーションあんず

この度は若輩者の私に過大な賞を頂き、有難うございます。病院や訪問看護を今日まで続けてこられたのも周りの方々の支えがあったからだと言えながらですが感謝致します。訪問看護は20年を過ぎましたが、たくさんの方に出会い、別れ、かけがえのない時間を過ごすことが出来ました。力不足は常に感じておりますが、訪問時には相手に寄り添い、言葉かけも考えて話すように心がけています。「見てもらえたのがあなたで良かった」と言って頂けるようにならなければと思いつつ接するようになっています。私もまだまだですが、後輩達に望むことは、技術は勿論ですが、相互理解できるように十分コミュニケーションをとり、信頼され、愛される看護師を目指しましょう。

市来 久子 エリーネス須磨 介護の家

臨床検査技師の養成受験の提出書類を受け取りに行った時、養護教諭から「血の検査の仕事も良いけれども、血が流れている人の事を仕事をする仕事をしてみては・・・」と言われて看護学校進学を決意しました。

初めて勤務した小児整形外科病院では多職種が関わる事の大切さを学び、率直に話してくれた子どもからは、障害を持って生活する事の大変さを学ばせていただきました。公立病院での仕事でしたが、当時はとても過酷な職場環境でした。その時の経験が後の業務改善に役立ちました。

現在は、看護師と介護福祉士が連携し、お年寄りがいつまでも安心してご自分らしく過ごして頂けるような老人ホームの運営に日々励んでいます。



上原 京子 垂水病院

衛生看護学校を卒業後、奨学金制度の関係で、神戸の精神科病院に就職しました。35年が過ぎました。何もかもが初めての経験で、当時、専門学校を卒業、看護師になる事を目標に頑張った日を思い出します。

現在の職場へ転職し22年。自身の未熟さから、押しつぶされそうになった時、救われたのは共に話せる仲間の力でした。そして、患者様の笑顔であり、「ありがとう」の一言は何物にも代え難いものでした。こうして、たくさんの人に出会い、支えられ、今も神戸の地で看護師として、働き続けられている事に感謝しています。今後、地域連携室長として、自施設と地域の協働に向けたつなぎの役割が担えるよう取り組んでいきたいです。

小川 保美 兵庫県済生会訪問看護ステーション

この度は、名誉ある賞をいただきましてありがとうございます。

在宅看護に携わり17年が経過しました。病院と違い機器のない現場で療養者と向き合い、自分の看護の精度が低下していないか確認しながら日々を送っています。看護師を続けていると挫折しそうなこともありましたが、ひたむきに生きる療養者とその方を支える家族に人生を教えられ今の私があります。ひとつひとつの出会いに丁寧に向き合えるのが在宅看護であり、訪問看護師を続けられている原動力になっていると思います。もちろん職場の仲間や家族の支えあってのこと。まだ在宅の現場を知らない方には是非とも門を叩いてほしいと願います。



鎌田 八重子 神戸赤十字病院

看護師新卒で神戸赤十字病院に勤務し、阪神・淡路大震災を経験した。発災当日より約2ヶ月間、継続的に全国の赤十字施設から医療支援を受けた事で赤十字の救護活動の偉大さを再認識し、災害看護に関わりたと思った。15年前、HAT神戸に移転し兵庫県災害医療センターで豊岡水害、中越沖地震への派遣、日本DMAT養成研修や全国赤十字救護班研修の立ち上げ、MCLS研修・災害訓練への参加を通して、全国の職種を超えた方々と出会い、活動し、協働することで「人を助ける」という大切さを学んだ。看護師として三次・二次の急性期医療から診療所の医療まで様々な看護を経験し、看護はいつも「一人のために、何ができるか」が自身の取り組み姿勢だと思っている。

川原 ふみ子 特別養護老人ホーム さつき園

「神戸市看護のともしび賞に選出されました」と突然の知らせにびっくりしました。受賞されるような立派な行いをしていない私にはどう返答して良いか、戸惑いました。しかしすぐ気を取り直して「わかりました」と返答させて頂きました。看護師として心がけていることは、精神的、肉体的に元気でなければいけないと常日頃気をつけています。そして働いている職場は、自分自身の心の持ちようによって、良くも悪くもなると気付かされています。至らない私ですが、スタッフに支えられ今日の私があります。元気がなくても仕事に就くと不思議な事に利用者様から、元気と笑顔を頂いている自分に気が付き、いつのまにか体が軽くなっています。



楠田 亜矢子 やまかわ消化器クリニック

私は、中学生の頃に看護師と将来の夢を持ち、迷うことなく看護師という職業に就きました。しかし、実際に看護師になってみると、精神的・肉体的にも超ハード!!その上、知識を深めるための勉強も終わりがなく、山盛り状態です。私も看護師になってから今日までつらい事の方が多かったかもしれません。

そんな中でも私が看護師を続けていくために、何より大切だと思えるものは、本音で語り合える友達の存在だと思っています。一緒に泣いたり笑ったり、時には怒ってくれたり、看護師同士だからこそ分かりあえる事も多く、救われます。人間関係が希薄になったといわれる昨今、簡単に繋がれるメールのやりとりもいいですが、是非一生付き合える友達を見つけて、大切にしてください。

小菌 弘子 (一財) 神戸在宅医療・介護推進財団

この度はこのような名誉ある賞を頂きましてありがとうございます。

大学受験の日、大雪にみまわれ受験を断念し、すべり止めで受けていた看護学校に進学したことが、看護師としてのスタートでした。

病院勤務を経て、その後在宅看護に出会い、ケアマネジャーや訪問看護に携わり、24年目を迎えています。この在宅での24年間は、看護師で在ることへの喜びを感じ、看護師になって本当に良かったと思える日々です。

人と人がしっかり向きあえる現場で、高齢者の方や御家族からたくさんの学びを得ることが出来たことと、多くの仲間にも恵まれ支えて頂いたことで今があると感じています。そして、あの日の大雪に感謝です。



小南 雅子 神戸朝日病院

私が看護の道を選んだのは、今は亡き父親の「お前は看護師に向いている」という言葉でした。人間の一番大切な尊い命に携わる看護の仕事に就いたことは、私を人間として成長させ内容の濃い人生となっています。役職に就いてからは患者様に安全・安心を提供するだけでなく、職員の健康や家族背景にも気配りをしながら、一人一人を大切に皆が良好なチームワークを保てるよう取り組んで参りました。これからも、慈しみの心と患者様に寄り添える笑顔の素敵で看護師でありたいと思っています。このたび、このような貴重な賞を頂き、病院長はじめ職員の皆様、患者様ご家族、そして支えてくれた家族に感謝致します。

嶋村 倫子 神戸市立医療センター西市民病院

このような素晴らしい賞を頂き感謝の気持ちで一杯です。看護師として働き続けて今年で39年目、ここまで続けて来られたのは、新人の頃から支えて下さった先輩方や仲間達、そして家族のおかげと思っています。

息子が3歳の頃、体調を崩した私は息子に「仕事やめて〇〇君と一緒にいようか」と言ったところ、「おかあさんがおしごとやめたら、びょうきのひとがこまるでしょ」と言われました。この言葉に、息子を理由に辛さから逃げようとした自分に気付かされました。

人はひとりでは生きていけません。看護師を続けられるみなさんは、患者さんを支える自分もまた、まわりの人たちに支えられていることを忘れないでいてほしいと思います。



竹本 好 河原医院

この度は「ともしび賞」という大きな賞を頂きありがとうございます。

看護師として数十年。結婚、出産、子育てと現在はお姑さんの介護。辛くてしんどくて何度辞めようと思ったか分かりません。そんな中、家族や仕事場のスタッフ、患者さんの温かい言葉に助けられました。(時には厳しい言葉もありました)

日々医学が進歩し看護師もたくさんの知識や技術が必要とされています。しかし患者さんの言葉に耳を傾けていく事、病気の事だけではなく患者さん自身が抱えている問題、不安や辛い思いに気が付き、分かり寄り添っていく、看護師として忘れてはいけない大切な事だと実感しています。

多田羅 英子 赤塚クリニック

この度は、このような名誉ある賞をいただきありがとうございます。

私は幼い時、病弱でいつも病院のお世話になっていました。その時の看護師さんの優しさが私の不安を和らげてくれ、いつしか私も病気の人に寄り添える看護師になりたいと思うようになりました。

看護師は人の命に携わる大切な仕事です。高い専門性とその時々々の状況を的確に判断できる能力が患者様に安心いただける看護を提供できると思います。

患者様やご家族様から感謝の言葉をいただいた時、「看護師になって本当によかった」と心から思います。この気持ちを日々忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。



橘 利子 あいはら子どもクリニック

ともしび賞、名誉ある賞を頂きありがとうございます。小児科クリニックに勤務して約18年になります。小児科の特殊な専門性の中、診療介助、処置。予防医療面でのワクチン接種の準備、スケジュール作成。日々忙しい業務の中での保護者への指導、援助を行ってきました。私は「地域医療向上を」と頑張る院長のもとクリニックスタッフ皆に助けられ勤務を続けてこられたので、今回の受賞はクリニック全員のものだと感謝しています。私を見て、看護師になりたいと言ってくれる子がいるのもうれしい事です。私が勤務していると安心する保護者も居てくれるので、あと少し地域の方に恩返しできればと思います。

谷本 江利子 兵庫県立こども病院

このたびは、神戸市看護のともしび賞をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、これまで、ご指導下さいました多くの先輩看護師の皆さまと、これまで関わったこどもご家族から看護する喜びを教えて頂き感謝いたします。

こどもが大好きで、兵庫県立こども病院へ入職し、長く小児看護の道を歩み続けました。大変な状況でも日々成長発達する姿に、こどもの強い力に感動し、笑顔からはパワーも貰いました。その姿は、私の看護師を続けていく上での大きな支えになっています。大切なこども達の将来を見据え、笑顔と頑張る力を引き出し、『笑児（しょうに）看護』をこれからもスタッフと共に目指します。



長田 敏子 たまつ訪問看護ステーション

訪問看護師になって20年目となる節目の年にこのような名誉ある賞を頂きまして心から感謝申し上げます。今までにお会いした利用者様、ご家族が私の看護の師であり人生の師です。人生・家族史は一つとして同じものではなく、訪問看護もすべてオーダーメイドであり、それはご利用者様ご家族と一緒に作り上げていくものであると感じています。そして一人一人の出会いの中で、学校や病院の中だけでは得られない知識、生きざまや人との絆の大切さを学ばせて頂いています。これからも利用者様の人生に真摯に向かい合い、そこで得た学びを明日出会う利用者様の看護に活かし、また後輩に伝えていくことが、この賞を頂いた私の使命だと考えています。

永吉 洋子 益子産婦人科医院

本日は、名誉ある賞を頂き誠にありがとうございます。私は益子産婦人科医院に勤務し約23年が経とうとしています。日々沢山の事を見て、感じて、泣いて、笑って仕事をしています。その中で一番の学びは「感謝」です。御家族の最大のイベントである出産のお手伝いをさせていただける事、赤ちゃんへは元気に産まれてくれてありがとうございますと感謝の気持ちで一杯です。この事を教えてくれたのは院長とスタッフです。スタッフの気持ちは患者様の心に影響を与えます。私が毎日笑って看護が出来るのは、職場環境の良さ、看護の質の向上を共に追うスタッフのお陰です。



林 裕美 神戸市立西神戸医療センター

この度は、このような名誉ある賞をいただき、本当にありがとうございます。

私は何となく進路を決め、看護師として働き始めたので、実は長く続けられると思っていませんでした。でも、上司や同僚らにとっても恵まれ、看護のおもしろさや、やりがいを実感できたからこそ、ここまで続けることができました。

また、様々な患者さんやご家族との出会いの中で、つらいことや後悔することも多かったのですが、最後はいつも患者さんの言葉に励まされ、助けていただきました。その経験と、多くの方に支えていただいているという感謝の気持ちを忘れずに、これからもがんばっていきたいと思います。

山本 佳子 つじの・こどもくりにつく

私が看護師を目指すきっかけになったのは、中学の時、父が入院し見舞う中、幼い頃描いていた看護師になりたいという事を思い出させてくれたからです。中学卒業後、看護の道へ進み就職。4年後退職して結婚・子供の手が離れるようになり、産婦人科医院に再就職しました。生命誕生の瞬間に携わり、小さな身体で生きようとする生命力の素晴らしさを目の当たりにし驚き感動を味わいました。

今は小児科で子供達の成長を見せてもらっています。入職した時の赤ちゃんが中学三年生になっています。悲しく辛い事、イヤになった事もありましたが、続けていると何でも話せる仲間に出会えました。私の財産になっています。“継続は力なり”頑張ってください。



●●● アルテミスとアジサイ ●●●

太陽神アポロンと双生児の妹である医療の女神アルテミスと神戸の市花であるアジサイを組み合わせた。慈愛にみちた女性を表す。